

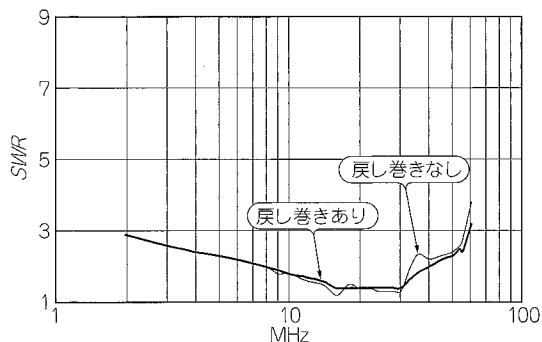
図42 A社BBアンテナの給電部の推定構造

る。やはりあるほうが良いようですから、同様のものを試作するときは付けることをお勧めします。

“行って来い”ですからうち消されて、ここでは余計なインダクタンスを生じませんが、それはコアがきちんと動作している低い周波数だけで、そうでない周波数ではアンテナ線に損失を与えるキョークを付けたのと同様の効果があるはずで、比較データを図43、図44に示します。

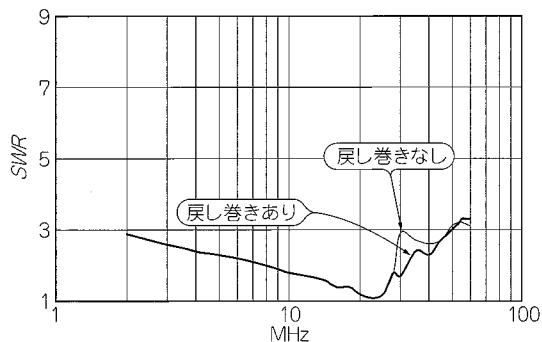
市販アンテナでは、エレメント長も指定されています。逆相MLBの考え方では、エレメント長についてはかなり雑な考え方をしていたのですが、もしやと思い特性を追い込んでみたところ、良好な結果を得ました。エレメント長を50cm伸ばしたところ、高い周波数で良好な特性となったのが図45です。ただし、これ以上伸ばすと、また特性は悪化します。

「CQ ham radio」誌のレントゲン写真を眺める限りでは、非常に大きなコアを使っているようです。また、巻線同士の結合はあまり密にいません。写真でも書きましたが、これは意外と大事なポイントです。



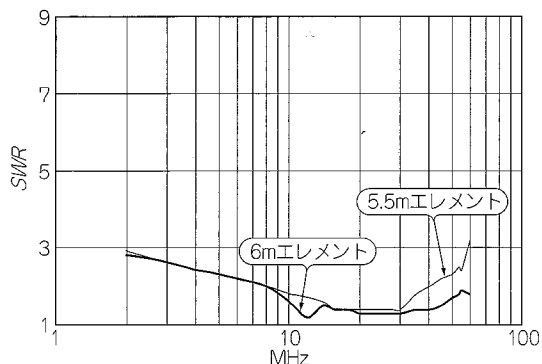
MLBはSC-05-200を二つ使ったメガネ・コア、3巻線エレメントは5.5m

図43 巻き戻しの有無による特性差(その1)



MLBはSC-05-200を二つ使ったメガネ・コア、3巻線エレメントは1.5m

図44 巻き戻しの有無による特性差(その2)



MLBはSC-05-200を二つ使ったメガネ・コア、3巻線

図45 エレメント長の微調整による特性差

## ■ BBアンテナの性能は？

ここでは、逆相型MLBやA社のBBアンテナの筆者推定について考察してみますが、A社の構造についての筆者の推測が合ってさえいれば、他のBBアンテナでも大きな違いはないでしょう。